



Obihiro Aoi Gakuen Information

学校法人 帯広葵学園

学園通信

◆2024年(令和6年)7月22日発行 ◆Vol.80

故きを温ねて、新しきを知る 《帯広葵学園のあしあと》

シンボルマークのこころ⑩

— あおいとりプラス —

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

現在、帯広葵学園は児童発達支援等施設である「あおいとりプラス」を三教室運営している。その最初の教室である「緑陽台教室」は、平成28年5月16日の開設である。同じ年の8月22日に「帯広教室」も開設しているが、音更町の緑陽台に最初の教室を設けた理由は、帯広葵学園が初めて行政から事業委託を受けたことへの感謝の気持ちからであった。

学園は、平成27年4月からそれまで音更町立保育園だった緑陽台保育園の運営委託を町から受けた。町立緑陽台保育園は障がいを持つ子どもを受け入れていた。混合保育を特色としていたのである。帯広葵学園に運営が移っても、その伝統は大切にしたいと考えたのであった。

では、その伝統をどう受け継いでいくかを検討したかと言えば、一つは、園の中にその保育と療育に関する専門的な知識と技術を持つ職員を配置することであった。この場合、対象となる子どもたちが複数のクラスにまたがるため十分な療育も保育も不可能と考えた。予定する職員配置数は一名なのである。

残された道は、その専門性に特化した事業体をつくりその職員が保育園に向き療育の分野を担うことであった。このような経過があり「あおいとりプラス」は誕生している。

その「あおいとりプラス」の現状は、必ずしも帯広葵学園の子どもたちに限定されてはいないが、私たちの仕事である『支援』が、できるだけ多くの子どもたちの未来を切り拓くものでなくてはならないことは言うまでもない。

ゆえに、「あおいとりプラス」のシンボルマークは、自由に飛び立つ「青い鳥」に乗った子どもたちが、のびのび育つ願いを込めたマークになっている。そして、このマークにある「青い鳥」は、支援を必要とする子どもたちだけを言うのではない。その子どもたちの周りにいる私たち大人も含まれることを忘れないで欲しい。



あおいとり プラス

【シンボルマーク考案者】

奥野 淳一氏

1948年帯広市生まれ。帯広三条高、道教育大釧路校卒。十勝管内の小・中学校で勤務し、帯広第一中学校長で定年退職。つつじが丘幼稚園園長や市教委「心の教室」相談員を経て、2017年8月から帯広北高校を運営する帯広渡辺学園の理事を務めている。

学校法人 帯広葵学園

〒080-0022
帯広市西12条南17丁目3 難波ビル2F
TEL 0155-23-7604 / FAX 0155-67-5778
URL <https://www.obihiraaoi.ed.jp/>

